

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2009

課題番号：19520429

研究課題名 (和文) 極小論に基づく音韻部門での表示と普遍的原理の研究

研究課題名 (英文) A Study of Minimalist Phonological Representations
and Universal Principles

研究代表者

那須川 訓也 (NASUKAWA KUNIYA)

東北学院大学・文学部・教授

研究者番号：80254811

研究代表者の専門分野：言語学・音韻論

科研費の分科・細目：言語学・英語学

キーワード：極小論、音韻表示、普遍原理

1. 研究計画の概要

本研究では、統語部門を中心に発展してきた極小論を音韻部門にも適用することで、言語機能を包括的に解明しようとする。特に、以下の三点を検討することで、統語論と音韻論の両領域にわたり共通の普遍的範疇や普遍的原理の存在を解明することを試みる。

(1) 音韻範疇 (弁別素性や音節構成素等) を見直し、極小論の指針と合致する範疇を探索する。具体的には、独立解釈可能な弁別素性や最小構成性原理に基づいた韻律範疇の特定化を行い、音韻派生過程において余剰性を排する音韻体系を考案する。

(2) (1)で解明した範疇を基盤とした音節や韻脚といった超分節構造 (プロソディ) と分節内階層構造を考案する。その際、統語論で用いられている裸句構造 (Bare Phrase Structure) を用いた構造を採用することで、これまで異なる構造を呈すると考えられてきた音韻論と統語論との間に、構造上の整合性を見ることが可能となる。

(3) 極小論の立場から、音韻部門と調音・知覚システム (articulatory-perceptual systems) との関係性を解明する。具体的には、音韻部門と調音・知覚システムとの間に、派生中間レベルを一切仮定しない直接的転写モデルを提案し、音韻現象の分析を通して、その妥当性を探る。

2. 研究の進捗状況

(1) 極小論の観点から統語部門における句構造構築に必須となる基本要素を明らかにしたのち、そこで得られた知見をもとに、音韻範疇 (弁別素性等) を見直し、極小論の指針と合致した範疇 (エレメント) の探究を行った。研究成果は、日本音韻論学会が毎年発行している『音韻研究』の11号および2号に掲載された。その他、国内外の様々な学会で研究成果報告を行った。

(2) 統語部門における裸句構造を用いて超分節構造 (プロソディ) の一部の構築に当たった。その研究成果の一部は、2007年10月にスウェーデンのゴッテンブルグで開催された International Conference on Bantu Languages、および2009年1月に米国ニューヨークで開催され CUNY Phonology Forum: Conference on the foot において報告された。

(3) 欠性対立を用いて表示上の余剰性を排するエレメントと呼ばれる素性を採用することで、音韻部門と調音・知覚システムとの間に、派生中間レベルを一切仮定しない直接的転写モデルを提案した。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

(理由)

研究計画で示した項目それぞれの項目の研究およびそれらに関係する諸相の解明をおおむね行った上で、それらの成果を国内外の関係学会や研究会で報告した。

4. 今後の研究の推進方策

極小論の最近の動向を踏まえ、進化的妥当性を明確に意識しながら、統語部門と音韻部門の両領域に共通する高次な普遍的範疇および普遍的原理の解明をさらに行う必要が出てきた。加えて、上述の構築したモデルを用いて、外的有標性理論を援用することなく音韻獲得過程を説明することが、参加した諸学会において求められた。それを受け、音韻獲得過程と生理学的獲得過程との境界を明確にし、それらの相互関係を探求した上で、共時・通時的音韻現象のみならず、音韻獲得過程を説明できるモデルを構築する必要と言える。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

Nasukawa, Kuniya and Phillip Backley (2008). Affrication as a performance device. *Phonological Studies*, 35-46.

Backley, Phillip and Kuniya Nasukawa (2009). Representing labials and velars: a single 'dark' element. *Phonological Studies* 12, 3-10.

[学会発表] (計 18 件)

Backley, Phillip and Kuniya Nasukawa (23 May 2008). Features as speech signal patterns. The 16th Manchester Phonology Meeting, University of Manchester, UK.

Nasukawa, Kuniya and Phillip Backley (15 January 2009). The foot: a unified entity for both metrical and segmental phenomena. CUNY Phonology Forum Conference 2009: The Foot, CUNY Graduate Center, New York, USA.

[図書] (計 4 件)

Nasukawa, Kuniya and Phillip Backley (eds.) (2009). *Strength Relations in Phonology*. Mouton de Gruyter: Berlin and New York.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]